

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	環境建築設計法小委員会		主 査 名：羽山広文 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：久野 覚 主 査 名：宇田川光弘
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設計事例と評価事例を収集整理し、特徴を分析するとともに、設計に役立つ事例集としてまとめる。 ・ 設計法の指針や設計に利用できるデータを提案する。 ・ 新時代を支える建築設備技術者の教育法を検討するとともに、学生に環境建築創造の魅力を伝える。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：公募委員 2 名		
	羽山広文 (北海道大学)、郡公子 (宇都宮大学)、長井達夫 (東京理科大学)、石野久彌 (首都大学東京名誉教授)、市川尚紀 (近畿大学)、宇田川光弘 (工学院大学)、奥宮正哉 (名古屋大学)、川瀬貴晴 (千葉大学)、木幡悠士 (NTT ファシリティーズ)、下正純 (竹中工務店)、中山哲士 (首都大学東京)、丹羽勝巳 (日建設計)、藤村淳一 (大成建設)、丸山純 (松田平田設計)、柳井崇 (日本設計)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2010 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 「建築一体化設備のデザイン」出版小委員会の活動に協力した。
講習会	1. なし 参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 6 回建築設備シンポジウムの企画・実施に協力した。
大会研究集会	なし。ただし、オーガナイズドセッション「エネルギー：シミュレーションツール」を提案し、5 編の発表論文を得て、活発な議論を行った。
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 環境建築の設計事例と評価事例の収集と分析を実施した 2. 環境建築の設計法やツールの収集と分析を実施した。 3. 建築設備の教育事例の収集と分析を実施した。
委員会活動の問題点・課題	1. 活動を通じて得られた成果をシンポジウム等で公開する。 2. 旅費が少なく、遠方の委員の負担が大きい。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2010 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p style="text-align: center;">今年度の環境建築の最新事例収集と施設調査について以下に示す事項を実施し、当初の目標を十分に達成した。</p> <p>第 1 回委員会 (2010/4/15) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2010 年 ASHRAE 冬季大会へ参加し、大会の状況、デンバー、サンフランシスコの環境建築の状況報告。 ・ オフィスのリニューアルの事例としてコクヨ東京ショールームの事例報告。 <p>第 2 回委員会 (2010/6/14) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BEST 建築計算における最大熱負荷の安全度評価、予冷熱時間の検討についての報告。 ・ 寒冷地における外気冷房併用型置換換気空調方式についての報告。 <p>第 3 回委員会 (2010/8/5) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 6 回建築設備シンポジウムの企画検討。 ・ 上海国際博覧会日本館の環境建築的特徴についての報告。 <p>第 4 回委員会 (2010/10/26) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水搬送系空調システムの効率的運用方法についての報告。 ・ 東京外語大学 7 号館の事例紹介。 ・ 2011 年度大会の細々分類および OS テーマの検討。 <p>第 5 回委員会 (2010/12/13) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京外語大学 7 号館の現地施設調査。 <p>第 6 回委員会 (2011/2/22) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境建築の事例 2 件の報告 			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。